

NPOマネジメント講座2月

資金獲得のポイントを学ぶ！

2008年2月26日（火）仙台

於：みやぎNPOプラザ

日本財団経営企画グループ
情報コミュニケーションチーム
荻上 健太郎

<http://blog.canpan.info/kaizokudan/>

1. 日本財団とは？
2. 助成金の性格と特徴
3. 助成金と助成財団
4. NPOの多様な資金源
5. 情報公開・発信を積極的に
6. 助成金を申請する前に
7. 申請書作成のポイント
8. 申請書作成ワーク

1. 日本財団とは？

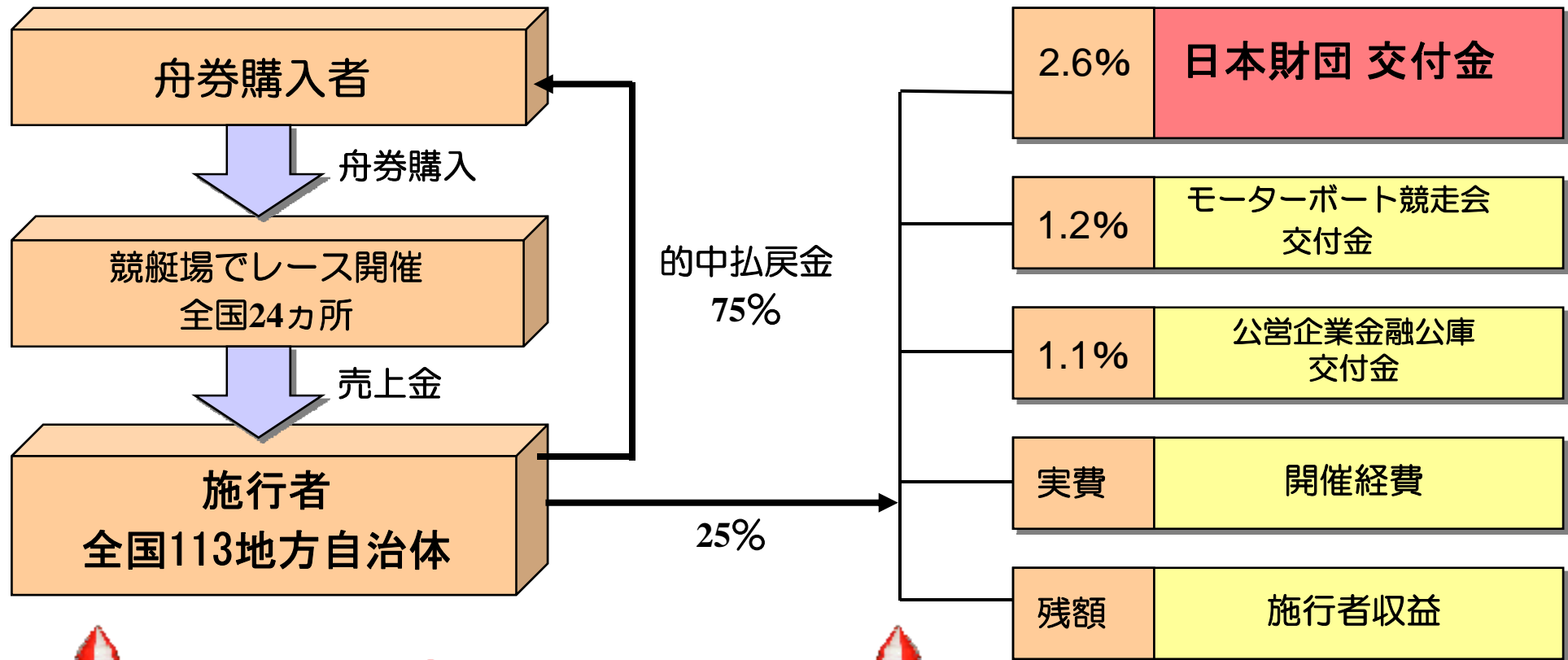
1. 日本財団とは？

- ・1962年設立の民間の助成財団
- ・正式名称は、（財）日本船舶振興会
- ・競艇の売上金（2.6%）をもとに活動
- ・国（官）ではできないことや、施策が行き届かない問題の解決のために、「公の心」をもちながら「民の視点」で取組んでいます。

1. 日本財団とは？

「モーターボート競走法」(1951年制定)により規定

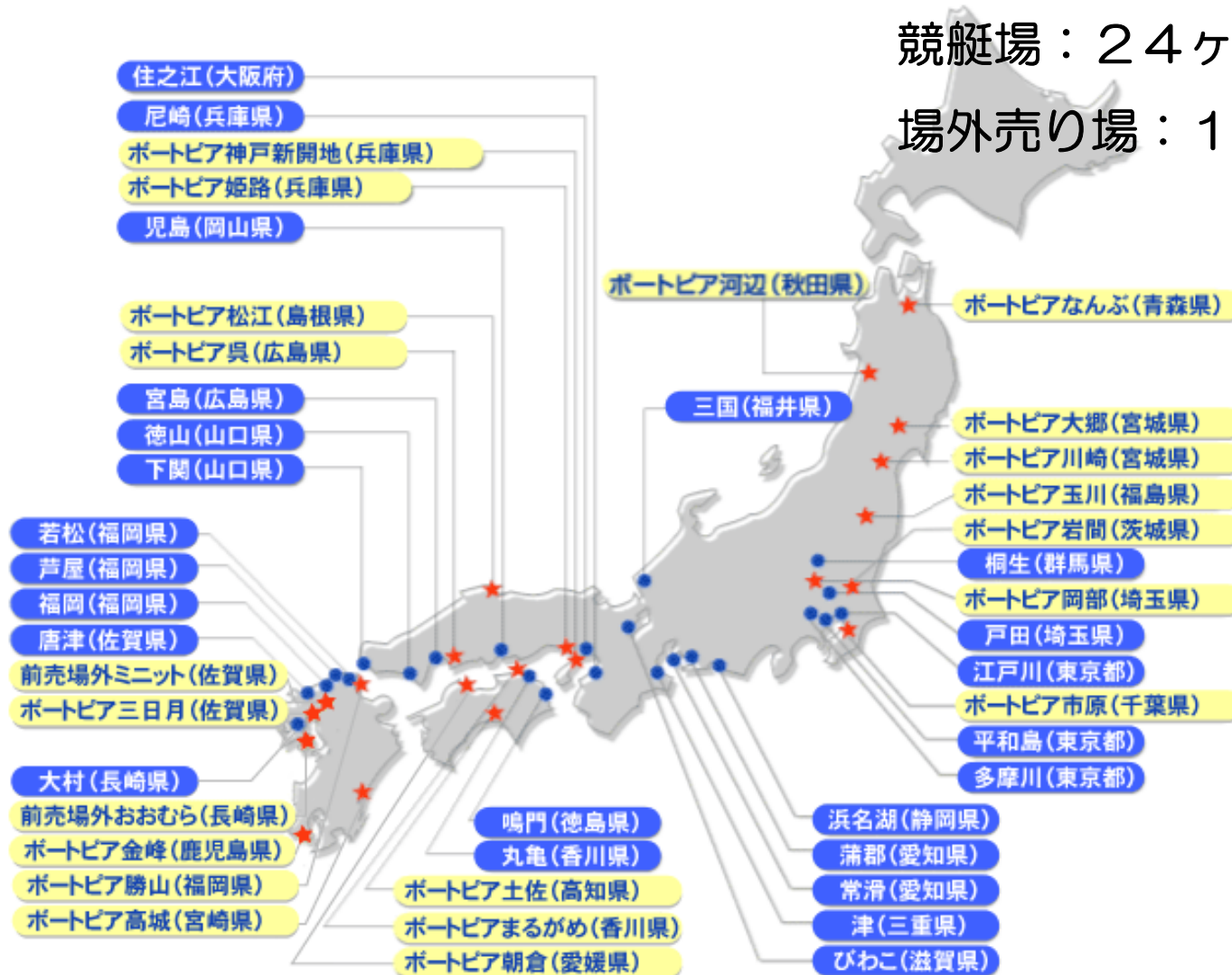
競艇の売上金の流れ



1. 日本財団とは？

競艇場：24ヶ所

場外売り場：19ヶ所



1. 日本財団とは？



日本財団（にっぽんざいだん）は、競艇の売上の3.3%をうけて、全世界のハンセン病の制圧プロジェクトやマラッカ海峡の航行の安全といった大型プロジェクトから、災害におけるボランティア活動にいたるまで、様々な「社会のお役に立ちたい」という事業を支援している助成団体です。



日本財団の事業 ～ 3つの柱 ～

1. 海や船に関する支援
2. 文化、教育、社会福祉等に関する支援
3. 海外の協力援助活動への支援



【2006年度実績：4,064事業 約291億円】



2. 助成金の性格と特徴

2. 助成金の性格と特徴

そもそも助成金とは？（広辞苑より）

①助成金

事業や研究などを助けて成就させること。力を添えて成功させること。

②補助金

不足を補うために出す金銭。特定の事業の促進を期するために、国または地方公共団体が公共団体・私的団体・個人に交付する金銭給与。

2. 助成金の性格と特徴

助成金の種類も多様！

	種類		
(1) 募集方法	公募型	計画型	待ち受け型
(2) 助成対象	事業助成	基盤助成	
(3) 支払方法	前払い	精算払い	
(4) 選考方法	事務局審査	選考委員会	投票など
(5) 期間	単年度	複数年度	継続

2. 助成金の性格と特徴

①単発的な資金

多くは単年度の単発的な資金。長期の場合も3年程度まで。

②管理運営費は対象外

職員給与等の人件費や事務所賃貸・光熱費等の運営費など、団体の管理運営費はほとんど対象外。

③自己負担が必要

全額助成は少なく、自己負担（自己資金）が求められる事が多い。（委託事業ではない）

④用途制限がある

予算書に沿った支出が原則。用途の変更には制約が多い。

2. 助成金の性格と特徴

⑤競争的資金

助成金を求めるライバルは多い。公益法人制度改革により競争が激化することが予測される。

⑥抽選ではない

宝くじのような抽選ではなく、審査により選考。

⑦ミッションに基づく社会投資

助成財団にはミッション（目的）がある。助成金は、そのミッションに基づく社会投資。

⑧経営は厳しい

助成財団も経営は厳しい。より高い投資効果（成果）を求める傾向が強まっている。

2. 助成金の性格と特徴

⑨決定してからが大切（大変）

決定がゴールではなく、スタート。どのような成果を出すか、その成果をきちんと発信・公開するかが求められる。

⑩留意事項の遵守が求められる

各種報告、手続き方法など、様々な留意事項がある。守らないと助成金取り消しになる場合もある。

3. 助成金と助成財団

3. 助成金と助成財団

助成財団とは？

事業・活動や研究などに助成金という資金を提供することを主な業務とする機関のこと。

自ら直接的に課題解決に取り組むのではなく、必要な資金を提供することで、間接的に課題解決に取り組む。

一般的には、民法34条に基づく財団法人であることが多い。

また、狭義では、いわゆる公益活動・非営利活動へ資金提供を行う財団のことをさす。

3. 助成金と助成財団

助成財団にとって助成金とは？

①目的達成のための投資

助成財団にはそれぞれ、

- ・財団の存在目的を達成するため
- ・様々な地域課題、社会的課題の解決のため
- ・新しい社会的価値を創造するため

という目的がある。

そして、助成金は「目的達成のための投資」であると
考えている。

3. 助成金と助成財団

助成財団にとって助成金とは？

②団体はパートナー

助成財団は自ら直接的ではなく、間接的に課題解決に取り組む。

- ・直接的に取り組むパートナーが必要
- ・団体（助成先）は目的達成のための投資先

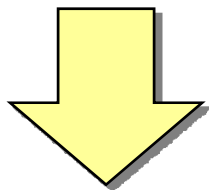
パートナーであり投資先だからこそ慎重に選ぶ。

3. 助成金と助成財団

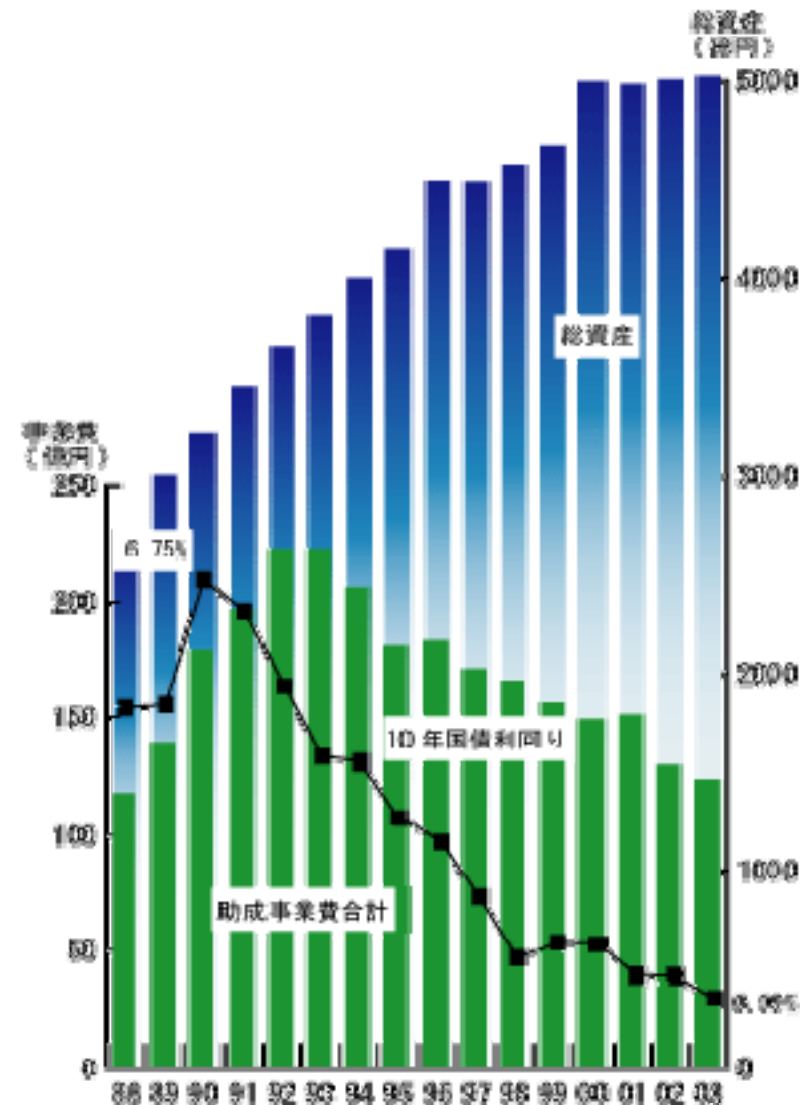
<助成財団の現状>

助成財団 1,087団体

低金利で助成事業費は
減少を続けている！



助成プログラムを
廃止、休止する財団
も！



参考文献：日本の助成財団の現状－2004年度調査結果（（財）助成財団センターホームページより）

4. NPOの多様な資金源

4. NPOの多様な資金源

助成金の前に・・・NPOの資金源は？

- ・ 政府・自治体→税収
- ・ 企業→売り上げ
- ・ NPO→多様！

①会費

②寄付

③事業収益

④補助金、助成金

⑤委託金

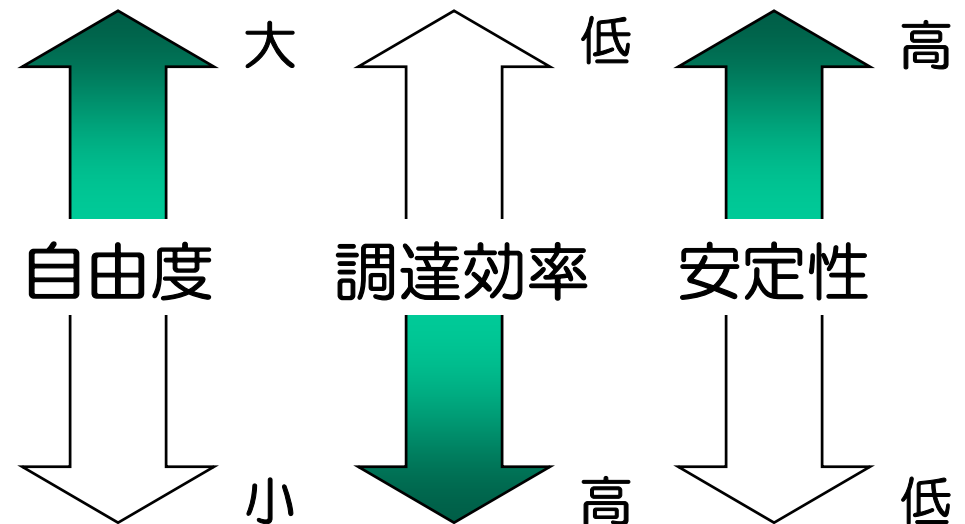
⑥融資（NPOバンク）

⑦税金（条例による）

4. NPOの多様な資金源

<NPOの資金源の特徴>

- ①会費
 - ②寄付
 - ③事業収益
 - ④補助金、助成金
 - ⑤委託金
- } 自主財源



→資金源の特徴をよく理解した上で、「バランスの取れた資金源」を目指そう！

4. NPOの多様な資金源

多様な資金源の確立はNPOのミッション

NPOも自分たちだけでは課題解決はできない

→課題に関わる人を増やす（つなげる）ことが必要

→資金源の確立＝関わる人を増やすこと

多様な資金源（＝多様な支援者）を確立することは、活動基盤の確立ということだけでなく、NPOのミッションの一つでもある。

5. 情報公開・発信を積極的に

5. 情報公開・発信を積極的に

日本財団は、助成金による支援だけでなく、情報による支援にも力を入れています。

なぜか？

公益活動にとって情報公開・発信が大切な3つの側面

その1：社会的責任として

その2：活動の活性化

その3：時代の流れ

5-1. 社会的責任として

NPO法人の情報公開は、

特定非営利活動促進法にも明記されている法的義務

(法の趣旨と精神を踏まえれば、任意団体にも当てはまる)

特定非営利活動促進法の第二十八条

特定非営利活動法人は、毎事業年度初めの三月以内に、内閣府令で定めるところにより、前事業年度の事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書（次項、次条及び第四十三条第一項において「事業報告書等」という。）並びに役員名簿（前事業年度において役員であったことがある者全員の氏名及び住所又は居所並びにこれらの者についての前事業年度における報酬の有無を記載した名簿をいう。）並びに社員のうち十人以上の者の氏名（法人にあっては、その名称及び代表者の氏名）及び住所又は居所を記載した書面（次項、次条及び第四十三条第一項において「役員名簿等」という。）を作成し、これらを、翌々事業年度の末日までの間、主たる事務所に備え置かなければならない。

5-1. 社会的責任として

ところが、NPOの情報公開の実態は・・・

事業報告書が1ページが60%!

3ページ以下では85%!!

(せんだい・みやぎNPOセンターによる宮城県内のNPO法人対象調査より)

「たった1ページの事業報告書しかない団体」

みなさんはどう思いますか？

人には厳しく、自分たちには甘い現状

5-2. 活動の活性化

情報公開・発信は誰のため？

- (1) 法令遵守のため
- (2) 活動の関係者のため（受益者、利用者など）
- (3) 地域、社会のため
- (4) 自分たちのため

情けは人のためならず（情報＝情に報いる）！

5-2. 活動の活性化

情報公開・発信で活動が活性化する事例

その1：会員数が3倍！参加者数が2倍！

みやぎ発達障害サポートネット

<http://blog.canpan.info/mddsnet/>

その2：半年で寄付金が4千万円集まった！

NPOバイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター

<http://blog.canpan.info/tamatama/>

ブログを活用した情報公開・発信が引き金に！

5-3. 時代の流れ

インターネットなどのITの進化による変化

(1) 個人(団体)がメディアを手にした

頑張っていれば十分、身の回りに届けば十分

→誰でも、どこまでも発信、どこからでも収集・評価が可能

(2) 情報公開・発信しているかどうか自体が判断基準

情報は言われた時・必要なときに出せば十分

→言われなくても出してあるという状態・姿勢そのもので判断

5. 情報公開・発信を積極的に

日本財団の助成事業においても、2007年度より、

- ①CANPANへの団体登録（団体の情報開示）
- ②CANPANブログによる事業実施状況の情報発信
- ③助成事業の成果物をウェブサイトで自主公開

を助成契約事項に盛り込みました。
（申請の際にはご留意ください。）

<ねらい>

1. 助成事業の透明化と認知向上および成果の活用
2. 助成先の社会的信用および助成の適正度の向上
3. CANPANという構想の推進

5. 情報公開・発信を積極的に

CANPANとは？

(正式名称：日本財団公益コミュニティサイト
CANPAN)

<http://canpan.info/>

「日本をもっと明るく、元気に！」を実現するための、
公益活動を支える情報インフラとして、2005年6月に
スタート。

公益活動に携わる、関心のある全ての人・団体のための、
情報発信、情報収集、コミュニケーションを行うことが
できるコミュニティサイトです。

もちろん、団体の情報開示・情報発信も行えます！

6. 助成金を申請する前に

6. 助成金を申請する前に

助成金の申請を検討する前に・・・

まず最初に確認すべき3つのこと

- (1) なぜ助成金が必要なのか？
- (2) 助成金で何をしたいのか？
- (3) その先の展開の見通しはどうか？

※団体の経営戦略や事業計画との整合性を忘れずに！

6. 助成金を申請する前に

助成金について理解すべき3つのポイント

(1) 「きっかけ」資金

新たな活動開始時、サービス内容の変更時など、「きっかけ」づくりのための資金として活用。団体の定常的な活動は対象になりにくい。また、定常的な活動の慢性的な資金不足への助成は少ない。

(2) 「その後の展望」を描く

助成金は一時的な資金。その後の展望を団体内部できちんと描く（計画する）ことが重要。

(3) 「育成・元気」につながる事業

助成金による事業を実施することで、団体とメンバーが育成し元気になるかどうか？無理な事業実施はマイナス効果も。

6. 助成金を申請する前に

助成金の申請を検討する際のポイント

(1) 情報収集を怠らない

- ・インターネット
- ・地域の間接支援組織
- ・新聞（地方紙）／口コミ

(2) 募集要項を熟読する

- ・ヒントが盛りだくさん！
- ・記入例があるときは参考にする。

(3) 事前相談する

- ・募集要項では分からないことが把握できる。
- ・事業計画の見直しや担当者との良き人脈構築を！

6. 助成金を申請する前に

なぜ、事前相談が重要なのか？

- ・ 募集要項では表現されていないことが分かる
- ・ 特に、助成財団の性格や傾向（好み）が分かる
- ・ 担当者（相談相手）という関係を構築できる
- ・ 事業計画（申請書）の推敲ができる
- ・ 自分たちの活動の課題が分かることもある

早めとは？

締め切り間際ではもう遅い。少なくとも、募集期間の前半までに！

6. 助成金を申請する前に

忘れてはいけない心構え

①不採択になっても気にしすぎない。

- ・基本的には、制度や審査基準を合わないことが理由。
- ・活動や人格の否定ではないので、深刻に悩みすぎない。

②不採択の理由を問い合わせる。

- ・結果の通知には理由が記載されていない場合も多い。
- ・問い合わせれば、ある程度は教えてもらえる。
- ・理由を把握していないと、次も同じ結果になってしまう。
- ・次への課題が分かることも。（転んでもただでは起きない）

7. 申請書作成のポイント

7. 申請書作成のポイント

①募集要項をよく読む

募集要項にはミッション、選考基準などのヒントがいっぱい。

※自分たちのミッションや事業計画との適合性をもう一度確認。

②記入例を参考にする

同じ記入項目でも、助成制度によって使い方が異なる。分かっていると思いこまずに確認する。

※記入例には、こんな書き方をしてほしいという助成財団の好み
が表われている。

7. 申請書作成のポイント

③申請書式を守る

申請書式は助成財団がこだわって作っているもの。文字数制限を守らない、書式を逸脱するなどは、マイナス効果となる。

※書式で表現しきれない部分を添付資料で補足する。

④情緒的より論理的な表現を

申請書はエッセイではなく事業計画書。情緒的な記述よりも論理的な記述が求められる。

※文章よりも箇条書きで簡潔に記述する。5W1Hが基本。思いを伝えることも大切だが、思いだけではだめ。

7. 申請書作成のポイント

⑤平易な表現を心がける

審査担当者は専門家とは限らないので、専門用語の羅列はNG。分かってくれるはずではなく、分かってもらうにはという意識で。

※分かっていない相手を分からせる説得力が求められる。

⑥解決策と実現性を具体的に記述

助成金でなにができ、それによりなにがどう変わるのかを具体的に記述する。

※問題や課題、思いの記述だけではだめ。審査の視点は解決策とその実現性。

7. 申請書作成のポイント

⑦ 予算書は算出根拠を明確に

いまどき、〇〇一式□□万円ではとおらない。事業計画と連動した合理的な予算づくりを。

※対象になる経費とならない経費があるので募集要項をよく確認。

⑧ 事業内容、予算書、スケジュールの連動性を確認

事業計画がしっかりしているかどうかは、連動性をみれば分かる。一通り書き終えた後で確認する。

※連動性がとれていない場合、計画自体に無理や不整合がある場合があるので要注意。

7. 申請書作成のポイント

⑨添付資料はほどほどに

新聞掲載記事コピーなどの添付資料は有効。しかし、添付資料は程度が大事。大量の添付資料はマイナス効果になることも。

※添付資料はあくまで添付であることを忘れずに。

⑩読み合わせを行う

複数の目で見ること、誤字脱字のチェックだけでなく、内容の推敲も可能。

※専門知識や先入観のない団体外部の人にも読んでもらうとより効果的。

7. 申請書作成のポイント

⑪ 団体内部で共有する

一部のメンバーだけの動きとせず、団体内部で必ず共有する。団体の活動計画全体の中での位置づけを明確に。

※助成金は団体に与える影響も大きいので、事前の共有をしていないと団体の存続危機に陥ることも。

⑫ 期日には余裕をもって

締め切り直前に資料請求しているようではもう遅い。

※上記に取り組むのは時間がかかるので、動き出しは早めに。

7. 申請書作成のポイント

「審査担当者の心をつかむ」申請書作成のポイント

(1) 団体情報を積極的に記載

パートナーとしての信用を獲得するため、基礎情報、実績、現状、財政、実施体制などを積極的に記載する。

(2) 企画の筋道と根拠のある数字

企画の筋道「問題→原因分析→原因解決の方法」を明確にし、かつ根拠のある数字の記載で理解を深めてもらう。

(3) 成果やその後の展開への期待感

助成金による事業を実施した際の成果やその先の展開を記述し、その後の展開を期待させる。

7. 申請書作成のポイント

<問題の性格別にみる申請書作成のポイント>

○パターンA（今困っている問題がある）

→問題と解決策が分かりやすいが、思いだけが先行しないように注意する。（分かってくれるはずでは伝わらない）

○パターンB（今は困っていないが、将来困る可能性がある）

→将来どんな可能性があるのかと、あらかじめ手を打つことの必要性を具体的に説明する。

○パターンC（今は困っていないし、今後も困る可能性はないが、やればより良い社会の実現に貢献できる可能性がある）

→一番記述が難しく対象にもなりにくいので、事前の相談で助成の可能性と注意すべき点を確認する。

8. 申請書作成ワーク

8. 申請書作成ワーク

<個人ワーク>

お配りしたA4用紙に、

みなさんの活動の中からどれか一つを選び、
(重要！活動全般ではなく一つ選ぶ)

- 1枚目：活動のタイトル（事業名）と団体名
- 2枚目：活動の背景と目的
- 3枚目：活動の主な内容
- 4枚目：活動に助成金が必要な理由と今後の展望

を記入してください。

8. 申請書作成ワーク

<グループワーク>

1. グループでまわし読み
(重要！必ず黙読で。書いたことの伝わり方を体感)
2. グループで意見交換
(重要！内容ではなく伝わるかどうかを中心に)
3. 発表用にどれか一つ選びみんなで改善
(重要！内容ではなく表現方法を中心に)

<資金獲得の心得>

1. 備えあれば憂いなし

情報収集・開示・発信を日ごろから心がける。

2. まずは身近なところから

灯台下暗し。地域には地域向けの助成金・補助金・支援者・相談先などが意外とたくさんある。

3. ご縁を大切に

お礼状、イベント案内、近況報告等をまめにし、一度築いたご縁を大切に育む。

本日はありがとうございました！

<プロフィール>

荻上 健太郎（おぎうえ けんたろう）

1973年米国ミシガン州生まれ（34歳）

1998年日本財団に入会

ボランティア活動支援、国際協力プロジェクト担当を経て、現在は経営企画グループ情報コミュニケーションチームに所属。

日本を明るく元気にするため、公益活動を情報で支援する「公益活動の情報志援士」を自称。

助成金講座、情報発信・公開講座、ブログ活用講座など、様々なテーマによる講座を全国各地を飛び回って実施中。

詳しくは、私のブログ「晴耕雨読」をご覧ください！

(<http://blog.canpan.info/kaizokudan/>)

<連絡先>

電話：03-6229-5305

E-mail：k_ogiue@ps.nippon-foundation.or.jp

ブログ：<http://blog.canpan.info/kaizokudan/>